

立教大学教会音楽研究所
2023 年度秋学期 レクチャーコンサート

「ドイツロマン派の宗教音楽」

2024 年 3 月 3 日（日）18:00～19:30

於・立教学院諸聖徒礼拝堂（立教大学・池袋キャンパス）

バロック後期から古典派の時代のドイツ（語圏）の宗教音楽は、バッハ、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンと、今も演奏会のレパートリーの中心を成しています。その系譜はロマン派の作曲家にも受け継がれて行くのですが、メンデルスゾーンやブラームス、ブルックナーの認知度は高いものの、さて、他に誰が居たかとなると今一つあいまいです。シューベルトとリストが加わるくらいでしょうか？しかし、実は 19 世紀は宗教的な感情が高揚した時代でした。有名無名の作曲家たちによって宗教音楽も途切れることなく生み出されたのです。

今回はそれらの中から、ルイ・シュポーア(1784-1859)、オットー・ニコライ(1810-1849)、ローベルト・シューマン(1810-1856)の作品を選んでメンデルスゾーン、ブルックナーと組み合わせてみました。作曲家それぞれの個性や、プロテスタントとカトリックの違いを比較しつつ、全体を通して感じられる時代の精神についても考えを巡らせる事が出来ればと思っています。

講師・指揮 **大島 博**（立教大学大学院キリスト教学研究科前期課程兼任講師
立教大学教会音楽研究所所員）

オルガン **今井 奈緒子**
合唱・独唱 **ジングアカデミー東京**

演奏曲目

ルイ・シュポーア	《永遠の神、われらが主よ》
オットー・ニコライ	《礼拝の音楽 第1番》
アントン・ブルックナー	《正しき者の口は》
ローベルト・シューマン	《ミサ・サクラ》より

…他

定員 100 名

参加費・無料

【お申し込み方法】

事前のお申し込みが必要です。以下の URL の申込フォーム（URL、または QR コード）から、必要事項をご記入のうえお申し込みください。なお、お問い合わせのある場合は、music@rikkyo.ac.jp までご連絡ください。返信までお時間をいただく場合がありますが、ご了承ください。

【参加費】 無料

【定員】 100 名

【申し込み受付期間】 2月5日（月）～2月26日（月）17:00 まで

※定員になり次第、申し込み受付を終了します。

◎申し込み URL <https://forms.gle/kvgFPJxjnCRq1t7o6>



〈講師・合唱団プロフィール〉

大島 博（指揮）

熊本県生まれ。中央大学卒業後、東京藝術大学音楽学部声楽科に入学。同大学院在学中の86年、ミュンヘン音大に留学、エルンスト・ヘフリガーに学ぶ。90-91年 D.フィッシャー＝ディースカウ に師事。95年東京藝術大学大学院博士課程を修了。宗教曲の分野で、初期バロックから現代作品まで幅広いレパートリーを持ち、とりわけバッハの受難曲における福音史家の演奏には定評がある。また、ドイツ・リート及び日本歌曲の演奏にも積極的に取り組んでおり、96年から〈ドイツ・リートのたのしみ〉と題した、ドイツ歌曲を知るためのレクチャーを行う。2004年からはシューベルトの《冬の旅》演奏会を毎年開催している。さらに 合唱指揮者、発声指導者としても幅広く活動する傍らドイツ詩の翻訳も手がけ、近年は楽譜の校訂・編集にも携わっている。立教大学大学院キリスト教学研究科兼任講師。

今井奈緒子（オルガン）

東京藝術大学、ドイツ・フライブルグ音楽大学オルガン科卒業。オルガンを河野和雄、故秋元道雄、廣野嗣雄、ジグモント・サットマーリの各氏に師事。1985年ドイツ・ゲオルグ・ベーム国際オルガンコンクール、88年ベルギー・ブルージュ国際バッハ・コンクールに入賞。日本・ヨーロッパ各地におけるソロ活動のほか、経験豊かな通奏低音・アンサンブル奏者として共演者から信頼を得ている。ソロ CD に「シャイトのアラマンダ」「バッハ：クラヴィーア練習曲集第3部」「スウェーデン 7つのオルガン」等。バッハ・コレギウム・ジャパン創設時からのメンバーとして教会カンタータシリーズをはじめとする国内外での公演、CD 録音に数多く参加した。現在東北学院大学教養教育センター教授、大学オルガニスト、同宗教音楽研究所々長。日本キリスト教団霊南坂教会オルガン主任。一社) 日本オルガニスト協会監事、日本オルガン研究会会長。一財) キリスト教音楽院評議員。

ジングアカデミー東京（合唱）

大島 博の呼びかけにより、19世紀ドイツで隆盛を誇った合唱音楽の研究、演奏運動に範を求め、さらに遠く「アカデメイア（快樂）」の原義に戻って「歌う快樂（Singakademie）」を追求しようと2009年に発足。各人が自立した音楽家として作品に取り組み、自由な雰囲気の中で有機的なつながりを持つ集合体として、完成度の高い音楽を作り上げることをめざしています。

これまでに H.シュッツ 《マタイ受難曲》、F.リスト 《十字架への道》《ミサ・コラーリス》、H.ディストララー 《クリスマスの物語》、F.マルタン 《2群の4声合唱のためのミサ曲》、H.ハウエルズ 《レクイエム》、J.マクミラン 《ミゼレーレ》など、比較的演奏される機会の少ない作品を演奏してきました。また J.ブラームス 《ドイツ・レクイエム》、A.ドヴォルジャーク 《スターバト・マーテル》のオルガン伴奏での上演により、楽曲へのより細やかなアプローチを試みています。